



AUE News



2011年12月15日

第 30 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(12月16-31日)
- トピックス
 - ・市川房枝展で林寛子中日新聞編集局次長が講演
 - ・税の専門家と一緒に考える社会科授業づくり
 - ・「日銀グランプリ」で本学学生が優秀賞
 - ・生駒野外実習園開設記念芋掘り&芋煮大会
 - ・岐阜県立瑞浪高校が本学見学
 - ・市川房枝展で演劇上演
 - ・学生ボランティアが一日女性警官として街頭キャンペーン
- ・第5回ポイ捨て防止アクション
- ・読書マラソンコメント大賞表彰式
- ・天文台一般公開「皆既月食観望会」
- ・冬の子どもまつり
- ・刈谷市民講座で学長講話
- ・花壇の花植えとイルミネーション点灯
- ・和歌山大学の学長・理事が本学訪問
- お知らせ・報告・投稿
 - ・不思議な鏡工作教室
 - ・催しもの案内

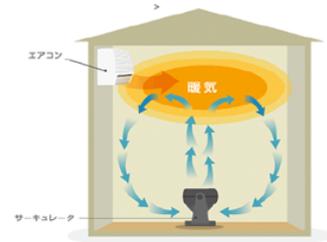
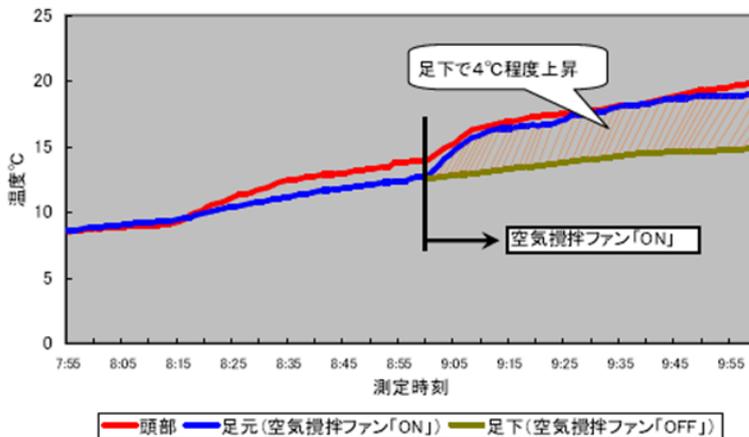
省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.12(作成は「省エネワーキンググループ」)です。冬の省エネのポイントを紹介し、皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

NO12 暖房時の「省エネ」について

冬でも「扇風機」が効くんです

第二共通棟431号室



●暖房時「省エネ」のポイント

- ① エアコンの暖気は天井付近に集まります。扇風機を「弱」で運転することで空気を攪拌し、足元付近の温度が上がります！ 体感温度も上がりますよ！



行事予定(12/16-31)

- 20日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
評価委員会 (役員部局長会議終了後 学長室)
- 21日(水) 教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
安全衛生委員会 (16:30～ 第五会議室)
- 27日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 29日(木)～1月3日(火) 年末年始の休日

トピックス

市川房枝展で林寛子中日新聞編集局次長が講演(12/1)

本学附属図書館で12月20日(火)まで開催中の「市川房枝没後30周年記念企画展」の一環で、林寛子中日新聞編集局次長が1日(木)、第五会議室で「理想は高く一市川房枝の笑顔に魅(ひ)かれ」をテーマに講演した。林氏は1996年4月から10月まで中日新聞に掲載された企画記事「理想は高く一市川房枝と女性参政50年」(27回)の執筆者。

講演会では松田正久学長が講師を紹介。林氏は男女平等の教育を受けてきたが、大学卒業を控えて就職先を探した際、女性の求人がほとんどなく衝撃を受け、日本の現代社会を確認したいと新聞記者となり、その後、選挙における女性の進出を市川氏と絡めて取材した、と長期連載を始めた経緯を説明。そして、市川氏が女性の地位向上に奔走したのは、厳しい父親に反発できない母親が女性ゆえの不幸を嘆くのを聞いたのが原点だったとされる点について林氏は「私は市川本人に会ったことはないが、関係者を取材。市川の父親は地域の産業振興を考えながら、いろいろなことに挑戦した人で、子どもには高い教育を受けさせた。母親は気性がきつかったとの証言もある。市川の進取の精神は父親譲りで、豊かな経済観念は母親譲りだったと思う」などと述べた。

また、取材を通して、市川氏の恋愛相手として彫刻家が浮かび上がったとのエピソードを紹介した後、「市川らによる婦人参政権獲得後も自由の流れが冷え込み、その後揺り戻しがあり、女性の地位向上、男女共同参画は戦後50年を経てやっと本格的になった。こうした意識の変化は螺旋状にしか進まないのかもしれない」と道のりの長さを指摘した。



会場では県外からの参加者を含めて教職員ら約40人が熱心に聞き入り、1時間余の講演が終わると林氏には大きな拍手がおくられた。最後に「今、生きていたら市川さんはどんなことをしていると思うか」「演題の笑顔のイメージは」の質問が出されると、林氏は「生きていたら、志がありながら力や資金がない若い女性のための応援をしていると思う。こういう笑顔のおばあちゃんは私利私欲、名誉欲はないと感じた。人に批判されても、本当のことはいずれわかってもらえるから自分が信じたことをしていけばいい、という魅力的な笑顔です」と答え、講演を締めくくった。



税の専門家と一緒に考える社会科授業づくり (12/2)

学生、教員と税の専門家が一緒になって「社会科授業づくり」を考える授業が、12月2日(金)2限に第一共通棟107教室で行われた。

この授業は、名古屋国税局との協働で今年度、初めて、税の仕組みから社会を捉える社会科授業づくりを実施したもの。社会科教育専攻の2年生50人が履修する講座で、10月7日(金)から週1コマ、全15回行われている。内容は、中学校公民教科書の比較分析、財政・予算・国の

借金・税制度などについて、資料を基にグループ討論、名古屋国税局幹部による講義、授業づくり、模擬授業の発表と考察、税の専門家と大討論会の順で展開。それぞれの場面で専門家による教材の提供、質疑応答や説明、講演などが行われ、社会科の教育実践力習得を目指した珍しい試みとして、全国的にも注目される授業となった。

12月2日は授業づくりの2回目の講義で、刈谷税務署の税務職員や税理士などの地元の専門家5人が授業に参加



して、学生たちがグループごとに作成した模擬授業の指導案づくりに税の専門家の観点からきめ細かなアドバイスをした。

担当教員の真島聖子講師は「授業をつくる上で、専門的な知識をまず教師自身が身につけることが大切です。その上で、社会科の授業では、地域とのつながりを重視した授業づくりが求められます。積極的に地域の専門家と協働することで、授業内容を充実させ、学びの質を高め

ます」と授業のメリットを説明。学生たちも、専門家の話を参考に指導案の修正や加筆を行い、専門的な知識や授業づくりのポイントについて学んでいた。



「日銀グランプリ」で本学学生が優秀賞(12/3)

日本銀行主催の金融分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第7回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」の決勝が12月3日(土)に日本銀行本店(東京・日本橋)で行われた。決勝には全国の大学から応募があった108件の論文から5件が選ばれ、本学からは現代学芸課程国際文化コースの鵜飼遙佳さん、前田宗誉さん、村井望さんの「先生のための金融教育(小学校編/中高編)」が進出した。

当日は各大学の関係者をはじめ100人近い参加者があり、会場内の張り詰めた雰囲気の中で、各大学の工夫されたプレゼンテーションと白熱した質疑応答が展開された。

本学チームは最後の5番目で、村井さんがドイツ・フライブルク教育大学へ留学中のため、鵜飼さんと前田さんが西村清彦日本銀行副総裁ら審査員を前に15分間のプレゼンテーションを行い、続いて15分間の質疑応答を行った。プレゼンテーションでは学校における金融教育の必要性を主張し、その実践の方法を教員になる学生の金融知識に関するアンケート調査を行うことで検討し、教員養成大学における金融教育のカリキュラムの提案を行った。質疑応答では審査員から金融教育の位置づけなどについて鋭い質問や指摘がなされたが、鵜飼さんと前田さんの連携で的確に答え、特に、金融教育の推進のための大学と金融広報中央委員会などの団体や学生との連携について、具体的な提案を行った。



審査の結果、金融教育の重要性への指摘や、アンケートに基づいた着実な分析や実践的なカリキュラムの提案が評価され、優秀賞を受賞した。惜しくも最優秀賞は逃したが、審査員の講評では高く評価され、今後の進展が大いに期待された。

本学からの初の決勝進出で優秀賞受賞という快挙には、鵜飼さん、前田さん、村井さんの大変な努力がありました。今後のさらなる勉学の発展を大いに期待しています。

(地域社会システム講座准教授 水野英雄)



生駒野外実習地開設記念芋掘り&芋煮大会(12/4)

生駒野外実習地（豊田市生駒町、7357 m²）は昨年度末、山林を含む農地の寄付が本学OBの方からあり、今年度春から利用が始まった。今年度は試験的な栽培で、夏作として水田稲作とサツマイモ栽培等を行った。米はすでに収穫、販売した。サツマイモの収穫にあたって、生駒野外実習地のお披露目を兼ねたイベントとして、12月4日（日）、イモ掘り・焼き芋・芋煮大会が行われた。



この日は前日の雨もすっかり上がり、風は強く肌寒

かったが空は快晴。午前10時、学生・教職員や近隣の子どもら約40人が集まり、松田正久学長、太田弘一教授（技術教育）、宇納一公教授（美術教育）のあいさつの後、早速イモ掘りが始まった。事前の参加の呼びかけに応じた近隣の家族連れも徐々に加わり、楽しそうに作業を続けた。農園を手入れしている加藤康矩さんによると「畑が日陰になるので作付けの半分から3分の2くらいの出来」というものの、子どもたちの歓声とともにたくさんのサツマイモが収穫された。



「イモ掘りは幼稚園以来で、土に触るのも久しぶり。鍬を使うのも最初は難しく慣れなかったが、久しぶりの農作業は楽しかった。貴重な体験ができた」と学生。イモ掘りが一通り終了した11時には焼き芋、芋煮、ふかし芋の準備も整い、参加者に振る舞われ、近隣住民の方も「焼き芋は甘いし、醤油味・味噌味の2種の芋煮もおいしかった。機会があればまた参加したい」と満足な様子だった。予定より早く正午には終了し、参加者はお土産として一人一袋のサツマイモを持ち帰った。



岐阜県立瑞浪高校が本学見学(12/6)

12月6日（火）午前9時45分ごろ、岐阜県立瑞浪高等学校から生徒36人と教員1人が大学見学のため来訪した。これが年内最後で、4月以来23件目。



到着後移動して、本部棟第5会議室にて、大学概要、入試、カリキュラムについて総務課、入試課、教務課の職員から説明を受けた。最後に推薦入試の受験にあたっての心構えや普段からの留意点について、質疑応答があった。その後、本部棟から学生サポートセンター、附属図書館、共通棟、自然科学棟の施設を見学し、少し早めの昼食を生協で済ませた。

職員から大学の印象について問われると、生徒たちは「敷地が大きい」「生協の食事がおいしかった」「将来は教員を目指したい」などと感想を述べた。約1時間30分という強行スケジュールでの見学となったが、皆満足した様子でバスに乗り込み、次の訪問先へ向かった。

市川房枝展で演劇上演(12/7)

本学附属図書館で開催中の「市川房枝没後30周年記念企画展」のイベントの一つとして、市川さんの学生時代の様子を描いた演劇「見よ、飛行機の高く飛べるを」が、12月7日（水）午後零時40分から、同館のアイ♥スペースで上演された。

この演劇は、同展の関連図書のうち1冊、脚本家の永井愛さんの同名作品「見よ、一」を本学の演劇部「把°夢（ばむ）」が脚色し、20分ほどに編集して上演したもの。同書が永井さん



の祖母と市川さんの学生時代の交流をモチーフにした脚本だったことを知った情報図書課職員の発案で、演劇で表現できないかと本学の演劇部に打診し、メンバーから快諾を得て、実現した。

原作では、本学の前身、愛知県女子師範学校に在学していた市川さんらが、当時主流だった「良妻賢母」教育に反対し、「飛行機が飛ぶ時代に、女性も自分の意思で生きる新しい生き方をしよう」と仲間とストライキを計画したものの、周囲からの圧力で苦境に立たされる様子が三河弁や名古屋弁を交えて書かれている。それを基に「把°夢」の4年生のメンバーが中心になり、脚色して20分仕立ての脚本にまとめて、わずか1カ月半という準備期間で敢えて挑んだ。

学生たちは当時の女学生のように袴姿で、新しい女性の生き方に希望を見出す姿や、意思の強さや葛藤を熱演した。また、校長役として松田正久学長も出演し、学生たちに交じって奮闘。来場者は約100人と大盛況で、時代の息吹を感じさせる学生たちの生き生きとした演技に、大きな拍手がおくられた。

学生たちは当時の女学生のように袴姿で、新しい女性の生き方に希望を見出す姿や、意思の強さや葛藤を熱演した。また、校長役として松田正久学長も出演し、学生たちに交じって奮闘。来場者は約100人と大盛況で、時代の息吹を感じさせる学生たちの生き生きとした演技に、大きな拍手がおくられた。



学生ボランティアが一日女性警官として街頭キャンペーン(12/7)

12月1日(木)～20日(火)は「年末の安全なまちづくり県民運動」期間で、刈谷警察署から市民の防犯意識を高める目的で、本学学生に「一日女性警察官」の依頼があった。初等教育教員養成課程4年の川瀬早希さん、市川貴咲さん、中等教育教員養成課程4年の安藤喜美子さんの3人の学生がボランティアとして参加することになり、12月7日(水)午後4時から刈谷駅隣のアピタ刈谷店内で来店者に対して注意を呼びかける啓発チラシ等を配付する活動を行った。



当日は、同署で制服に着替え、渡邊喜代一同署長より一日女性警察官としての委嘱状を受け、その後にアピタ刈谷店へ移動して刈谷警察生活安全課の署員3人及び刈谷市役所の職員2人、刈谷駅周辺地域住民で安全パトロール隊員11人とともに活動した。最近また、高齢者を狙った振り込み詐欺事件が増えているといい、皆ATM機コーナー付近等の出入口に集まり、本学女子学生3人も「振り込み詐欺には十分注意をしてください」と声をかけながら、来店者にチラシを配った。

教員等への就職が内定している3人の学生は終了後「警察署長からの委嘱状受理時やアピタでのチラシ配りの最初は大変緊張しましたが、一日女性警察官として制服を着させていただき、業務をしっかりと勤め、大変良い経験をさせていただきました」とホッとした表情で、笑顔で話していた。



(学生支援課係長 亀山重人)

第5回ポイ捨て防止アクション(12/8)

12月8日(木)の午後、終業前の約20分、標記の取り組みをしました。今回は、参加者が17名とこれまでより増えたこと、ある教員が行うゼミの女子学生が4名も参加してくれたことがとても大事です。参加いただいた皆様、ありがとうございます。

とても残念なことに、①いつもの4エリアの合計が、496本となって、前回の228本(10月)、前々回(9月)の149本からすると逆に増えています。②今回は、西門も別扱いで対象にしましたが、フェンスの外側だけでなく側溝にもたくさんの吸い殻が落ちていました(写真を参照)。西門近くの敷地外で吸った後に、そのままフェンスの網目から敷地内の溝に吸い殻を棄てたもの

と思われます。底には落ち葉もたまっており、ボヤの危険性があります。最高学府といわれる大学にあって、喫煙者の行動がこういうことで良いのでしょうか。

本学の全面禁煙の方針は、健康増進法（2003年より施行）第25条の、教育機関等公共の施設は「受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう）を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない」という義務規定を遵守するための取り組みです。

上記のようなポイ捨ての現状を見て、「だから分煙化してはどうか」とのご意見も寄せられていますが、その趣旨について一定の理解はしつつも、法律を遵守しようとする本学の取り組みの立場からすると、慎重に対処していかざるを得ません。今は、大学人としての知性と良識に訴え、喫煙者の自覚とマナーを再度、要請いたします。

（総務担当理事 折出健二）



読書マラソンコメント大賞表彰式(12/8)

大学生協による「読書マラソンコメント大賞」の表彰式が、12月8日（木）午後5時から、大学会館大集会室で行われた。



「読書マラソン」は、学生が在学中にたくさんの本を読むことを応援しようと全国大学生協連が2004年に始め、その一環として「全国読書マラソンコメント大賞」を実施。7回目となる今年は、全国の大学生協で7000余通の応募があった。愛教大生協でも全国版に合わせて、附属図書館との共催で「愛教大版読書マラソンコメント大賞」を開催し、独自の賞を設けている。今回は、6月から10月までに107通の応募があった。



表彰式で松田正久学長は「本を読むことは自分の力になる。いかに生きるかは読書につながっている。読書を通して自分づくりをしてください。受賞されたみなさん、おめでとうございます」とあいさつし、柳浩太郎著「障害役者～走れなくても、セリフを忘れても～」へのコメントで学長賞に選ばれた槇尾恵子さん（国際文化コース2年）に表彰状を授与した。槇尾さんは「これを励みに、これからも本を読んでいきたい」と喜びを語った。

続いて、「生協理事長賞」の近藤香奈子さん（初等・理科選修2年、上橋菜穂子著「獣の走者 完全編」）に今井靖雄生協専務理事から、「図書館長賞」の有川道世さん（教育学研究科発達教育科学専攻2年、長野まゆみ著「鉾石倶楽部」）に岩崎公弥図書館長から、それぞれ賞状が授与された。ほかに、部門賞（教育書）、愛教大賞1～3位、特別賞などを合わせると、計16人の作品が入賞。全国版ではナイスランナー賞の樋口真理さん（中等・国語書道専攻1年、山田昌弘著「希望格差社会」）ら4人が入賞を果たした。

式の後には、人気作家はやみねかおる氏によるトークショーが行われ、はやみねさんが理科実験のようなトリックを披露し、「子どものころはエンジニアになりたかった。その後学校の先生、作家になれるといいなと思っていました」などと、作家への道のりや、物語の展開の仕方など執筆の裏話などを繰り広げ、会場を沸かせた。



天文台一般公開「皆既月食観望会」(12/10)

皆既月食となった12月10日（土）午後8時から、本学天文台の「第68回一般公開」が開催され、月食を観測しようと、天文マニアから親子連れまで多くの参加者が訪れた。

皆既月食の時間に合わせて、遅めの時間帯で実施したが、事前の新聞報道などもあって、予想

を超えて、ミニ講座には 222 人、観望会には 341 人が参加。これまでの最高の参加数を記録し、中には富山県など遠方からの来場もあった。

天気予報では晴れだったが、ミニ講座が始まったころは、雨がぱらつくあいにくの天候。それでも多くの参加者があったため、会場に入り



りきらず、2 回に分けて実施。講座では、科学・ものづくり教育推進センター長の澤武文教授（理科教育）が、日食と月食に

ついて、どうして起こるのか、新月や満月の時でも、めったに日食や月食が起こらないのはなぜか、どのぐらいの割合で起こるのかなどについて、シミュレーション映像を交えて説明した。また、別室で待っていた参加者には、急き

よ、高橋真聡教授（同）による、ブラックホールについてのレクチャーも行われた。

2 回目の講座が終わるころには、すでに月食の開始の時刻で、幸い雨も止み、屋上での観測がスタート。皆既の直前あたりから雲の切れ目も大きくなり、大勢の参加者が月食の様子を楽しんだ。小型の望遠鏡にカメラを付けて、月の写真を撮ったり、15cm 望遠鏡では月の全景を入れ、月食の月を観測。その後、40 cm 望遠鏡でオリオン星雲、木星の観測も行われ、月食が終わる午前 1 時過ぎに観望会を無事に終了した。



冬の子どもまつり(12/11)



本学の恒例行事「第 35 回冬の子どもまつり」が 12 月 11 日（日）に本学キャンパスで開催され、多くの子どもたちにぎわった。

子どもまつりは、教師を目指している学生に子どもと触れ合う機会を提供する行事。毎年、春と冬の 2 回、学生たちが組織する実行委員会が主催、子どもと遊び、学ぶための企画を用意し、一緒に楽しむという本学ならではの催し。冬は春の“前哨戦”として、1 年生の委員が中心になって運営している。



午前 9 時の受け付け開始時間には、会場を待ちわびる子どもたちの行列ができるほどの人気ぶり。9 時 40 分からは第一体育館で開会式が行われ、催しの約束ごとなどを確認してスタートし、プレゼント抽選会、ヒーローショー、子どもまつりのキャラクターサイン会などが続いた。第二体育館や第一共通棟、中庭も会場となり、紙芝居や人形劇、折り紙のクリスマス飾り作り、宝探し、社会科教育の学生による「あそんでまなぼう！社会科」など 15 種類余のゲームが繰り広げられた。午後 2 時からは会場内の飾りを持ち帰りができるようになり、子どもたちは気に入った飾りを腕いっぱい抱える姿も。午後 3 時の閉会まで、子どもと学生たちの歓声がキャンパス内に響き渡った。



この日の参加は、子どもが約 600 人、学生 78 人、それに実行委員会の学生 51 人。訪れた子どもたちは「大学生のお兄さん、お姉さんといろんなゲームができて面白かった。キャラクターと一緒に写真も撮りました」と笑顔。子どもまつり実行委員会の戸軽茂仁委員長（養護教育・2 年）は「子どもが楽しんでいる姿が



見られてよかったです。今回は混雑せず、安全に行えたので、この経験を来場者の多い春まつりに生かしていきたい」と手ごたえとともに、次回への抱負も語った。

刈谷市民講座で学長講話(12/11)

本学と刈谷市教育委員会の連携市民講座が12月11日(日)午後1時から刈谷駅南口の刈谷総合文化センターで開催され、松田正久学長が「社会と大学」をテーマに特別講話を行った。休日の午後にも関わらず、市民ら約40人が参加、2時間の学長の話に耳を傾けた。



学長は冒頭、出身地の島根県や大学で学びや専門とした理論物理学の恩師などの研究を紹介。近代の大学の歴史をひも解きながら、12、13世紀のボローニャ大学やパリ大学が法学、医学、神学などの学びの場となり、15世紀までに欧州全体で70~80の大学が誕生し、リベラルアーツの由来ともいえる自由学芸(文法、修辞学、弁証法、算術、幾何学、天文学、音楽の自由7科)がパリ大学で力を持っていたこと、その後衰退した大学が19~20世紀にかけて教育と研究の不可分の理念が広がり、現在の大学の原型であるフンボルト型の大学がドイツを中心に、再生してきた経緯を解説。日本の大学については明治時代から戦前、戦後の流れ、進学率の推移や学会のあり方に触れた。学長は「核廃棄物は科学技術で無害化できず、閉じ込めておくしかないが、10万年にもわたってこれを安全に管理できるというのは、人間の思い上がりに過ぎない。科学者は学会という『世間』に属しているが、この“ムラ社会”をどう乗り越えていくかが鋭く問われている」と問題を提起。

また、大学と社会について「高等教育の無償化、国際化、教員養成、生涯教育、大学教員の社会化などが今後の課題。この講座のように市民の生涯にわたる学習権を大学が確保できるのかも重要。IT時代は、グーテンベルグの印刷機の発明がもたらした大学の変貌に匹敵するそうした時代の変化を与え、大学の在り方が根底から問われる。21世紀はどんな世紀になるのか。少子高齢化や資源エネルギー、超国家的連帯、新しい世界観の時代だろう。長期的な変化に耐え得る知識の背景にある考え方を身につけ、可能性、潜在力を持った学生を育てるのが大学の役割で、教育大学としても教員を中心にこうした人材養成に正面から取り組みたい」と述べ、会場から大きな拍手がおくられた。



最後に学長から聴講者に修了証が渡され、特別講話を終えた。

花壇の花植えとイルミネーション点灯(12/13)



第二福利施設前などの花壇で花植えの作業が12月13日(火)午前、施設課、財務課の職員により行われた。

大学内でも毎日、多くの人が行きかう第二福利施設前の花壇を整備し、キャンパス内の環境を整えようと、この夏、職員によって花の苗が植えられた。緑が少なくなるこの季節、春まで楽しめる花をと、今回はパンジー、サクラソウ、ビオラ、アリッサムの4種類の花の苗、計200株を、職員15人で植えた。夏の花が枯れて、硬くなった土を耕したあと、一株ずつ丁寧に植栽し、たっぷりと水をやり、保水と防寒・防霜のための藁を根元に敷きつめて完成。寄せ植えした植木鉢は、本部棟前のコンクリートのポットに設置した。





また、この日はバス停前のロータリーにイルミネーションも設置された。美術教育の学生たちが昨年作成し、刈谷駅前商店街を飾った作品のうち、地球や天の川をモチーフにした4機が備えつけられた。夕方には点灯、夕闇で暗くなったキャンパスを明るく照らしていた。イルミネーションの点灯期間は来年1月16日(月)までで、時間は日没から午後11時まで。

和歌山大学の学長・理事が本学を訪問(12/15)

12月15日(木)、午後2時頃、和歌山大学の山本健慈学長、堀内秀雄理事(総務、研究・社会連携担当)が本学を訪問され、松田正久学長、折出健二理事(総務担当)、岩崎公弥理事(教育担当)が学長室で応対しました。話題は、最近の運営費交付金や給与問題をめぐる動向、さらには事務組織の改編、学内合意の形成の在り方、役員と教員及び事務職員との交流の作り方など、どれも興味深い、それぞれ担当をしているがゆえに示唆に富む話に時間を忘れる程でした。特に、国立大学の研究・教育を実際に担う当事者としての声をいかに国民に理解していただけるように発信するかが話題となりました。



一区切り着いたところで、学長の案内で学内を観てもらうことにして、まずは第一人文棟の屋上からキャンパスの360度全景を観ていただきました。風が少々冷たかったのですが、本学の敷地(面積ではほぼ和歌山大学と同じ)内の主な建物などを観ていただきました。続いて、ちょうど図書館で開催中の市川房枝没後30周年記念企画展にお二人を案内して展示を観てもらい、情報図書課の稲葉裕美職員が展示のポイントや、7日に行った本学の演劇部による市川房枝を描いた演劇について説明しました。お二人は熱心に展示を見て話に聴き入っていました。そのあと、生協の食堂を改修した現場、購買部・書籍部も観ていただきました。

堀内理事からは、事務職員への処遇の工夫を含めた山本学長の下での様々な配慮についてもお聞きし、参考になりました。短時間でしたが、とても刺激的な中身のある出会いとなりました。
(総務担当理事 折出健二)

お知らせ・報告・投稿

不思議な鏡工作教室(報告)

11月22日(火)に日進市立北小学校で、翌23日(水)に刈谷市総合文化センター(アイリス)で「不思議な鏡」の工作教室を開催しました。今回は科学・ものづくり教育推進センターの活動の一環で、小・中学校の理科の単元にある「鏡」の応用教材として期待される魔鏡の工作に挑戦してみました。

魔鏡は、太陽光などの直線的な光(平行光)を反射させることにより、鏡の表面に無いはずの像が、反射した光の中で浮かび上がる鏡です。歴史をひも解くと、古くは隠れキリシタンの間で「隠れキリシタン鏡」が作られ、禁止されたキリスト経の十字架やマリア像などを隠したまま浮かび上がらせ、それを崇拜したりしていました。従来は、特殊な技術を持つ職人や、精密機械を使わないと製作できず、製作日数も1週間程度かかってしまっていました。しかし今回、金属の性質を利用すると比較的簡単に製作できることがわかり、小・中学校用の教材にと活用し





てみました。

日進市立北小学校では、ぜひ自分のクラスの子どもたちに工作させたいという5年生の担任の要望と、3年生の教材に活用したい、ということで工作教室を開催。早速、自分の好きな絵を描き、製作に取り掛かりました。早い子どもは20分程度で完成させていました。この日は幸い晴れていたため、太陽光に反射させて自分の作品

を確認していました。全員が完成させることができ、感動の声、驚きの声、喜びの声があちこちで上がり、満足そうな表情の子どもの顔を見られて大変良かったと思いました。また、「なぜ？」と原理を聞きに来る子どもが何人もいて、探究心をくすぐる理科の教材として有用なものであると感じました。子どもたちが作った鏡はそのまま持ち帰ってもらい、先生・スタッフが作製した鏡は3年生の授業に活用してもらうよう先生方に提供しました。



刈谷市総合文化センターでも理科工作教室として、この魔鏡の工作を行いました。付き添いで来られたはずの保護者も夢中になって工作に参加していました。この日はあいにくの雨模様で太陽の光を使うことができなかつたので、比較的平行光が得られるスポットライトを光源に使いました。ここでも前日同様に、子どもと保護者からも驚きの声が上がり、大変良かったと思います。また後日、半数以上の方から原理に関する質問のメールが寄せられ、小・中学校の教材候補を用いた理科工作のイベントとしては成功だったと思います。

現在、この技術は太陽電池などで知られるシリコンウェハ等の非破壊検査に利用されています。中学校においては、この応用分野の紹介なども学習できればと思っています。

また、この魔鏡ですが、来年度の教材カタログ掲載に向けて検討を続けております。

(科学・ものづくり教育推進センター 土谷徹)

催しもの案内

- ◆「市川房枝 没後 30 周年記念企画展」
12月20日(火)まで
附属図書館2階 アイ♥スペース 入場無料
本学の前身、愛知県女子師範学校を卒業し、男女共同参画に偉大な功績を残した市川房枝さんの生涯を、パネル・蔵書・遺品を展示して紹介。
問い合わせ：情報図書課 TEL 0566・26・2683/2687
<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

- ◆教育創造開発機構「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム2011
「教員養成系大学におけるリベラル・アーツ」—教養教育の在り方を考える—
12月17日(土)13:00~18:10 入場無料
ウインクあいち(愛知県産業労働センター)12階1203会議室
第一部・基調講演「教員養成系大学とリベラル・アーツ教育」
講師・桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科課長 館昭氏
神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 船寄俊雄氏
第二部・パネルディスカッション「教師力を鍛える教養教育とは」
問い合わせ：教育創造開発機構運営課 TEL 0566・26・2717/2718

- ◆第2回あかりアートの世界
12月20日(火)~25日(日)17:00~20:00
刈谷駅前商店街「スペースAqua」
宇納一公教授と彫刻研究室の学生による、電飾・オブジェ・立体作品を展示。

◆招へい研究者による第2回講演会

12月20日(火) 17:00~19:00 入場無料

大学会館2階「中会議室」

国際交流事業の一環として開催。招へい研究者に研究テーマや出身国のカンントリーレポートなど。

講師・東北師範大学(中国)教授 谷峪氏

スラバヤ大学(インドネシア)准教授 Y o y o k S o e s a t y o 氏

スラバヤ大学(インドネシア)准教授 N a s u t i o n 氏

問い合わせ: 国際交流センター TEL 0566・26・2129

◆音楽科学内演奏会

12月21日(水) 13:30開場、14:00開演 入場無料 途中入退場可

音楽棟演奏室

音楽科が日頃の練習の成果を披露。ピアノ演奏、楽器アンサンブル、合唱など。

◆共通科目「平和と人権」特別授業

12月21日(水) 13:20~16:30

第二共通棟421教室

クラウンとして世界的な活躍をするとともに、ホスピスクラウンとして難病の子どもたちの支援活動を続ける非常勤講師の大棟耕介氏による授業。

対象・平和と人権入門3クラスのほか、今回は学生以外に大学院生、教職員の聴講も可能。

問い合わせ: 土屋武志教授 tktutiya@aecc.aichi-edu.ac.jp

◆小中英語教育教員研修会

12月23日(金)、24日(土) 9:30~16:30 入場無料

第一共通棟3階

対象・現職小・中学校・高校の教員、教員を志望する学生、英語教育関係者、一般。

問い合わせ: 外国語教育講座 小中英語支援室

TEL: 0566・26・2245

<http://www.aue-english.aichi-edu.ac.jp/>

◆第1回LA防災セミナー

12月27日(火) 15:00~

大学会館2階「中会議室」

対象・本学教職員、学生、一般

15:00趣旨説明、15:05「地震とは」理科教育講座准教授・戸田茂氏、

16:45「震災の体験から学んだこと」釜石市市議会議員・震災復興特別委員会副委員長・赤崎光男氏

問い合わせ: 教育創造開発機構運営課 TEL 0566・26・2717

◆理科実験プレ教員セミナー

12月28日(水) 10:00~15:30 参加無料

自然科学棟

小学校教員として知っておかなければならない実験・観察を中心に実践的な内容で実施。10:00~12:00化学「化学薬品と実験器具の取り扱いの基礎」、生物「生物の観察・飼育法」。13:30~15:30物理「電気・電流の働きとその利用」、地学「月と太陽の満ち欠けを中心として」。

申込み、問い合わせ: tiwayama@aecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

「市川房枝展」での演劇のラストシーンは、ストライキ計画の仲間がいなくなり、独りになっても意志を貫く市川さんの姿でした。その強さに感動しながら、独りぼっちで大きな権力と闘う彼女の胸の内を思うと、熱いものがこみ上げてきました。同じ年頃の学生さんたちが演じたことで、若者にもよりリアルに伝わったと思います。企画の主旨に賛同して、短い準備期間で演じ切ってくれた演劇部「把° 夢（ばむ）」の皆さん、本当にお疲れ様でした。卒論や大学院の試験を控えながらも台本の脚色、衣装の準備をしながら稽古に励んで、上演してくれた後輩たちの心意気に、天国の市川さんも「後輩たちも、なかなかやるな」と喜んでくれたはずです。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二